

平成 20 年度助成研究実施報告書

研 究 題 目	田野畑村における小学校統合に伴う地域再生に関する調査研究
研究者(所属・職)	研究代表者 浅沼 道成 (岩手大学人文社会科学部・准教授) 共同研究者 横井 修一 (岩手大学・名誉教授)
研 究 代 表 者 連 絡 先	電話：019-621-6835 F A X：019-621-6835 Eメール：michi@iwate-u.ac.jp U R L：
研 究 目 的	平成 22 年に実施される田野畑村の小学校統合に伴う小学校がなくなるという地域の不安に対して、統合後の地域づくりの方向に対して提言を行う。
研究結果の概要	<p>1 背景及び課題・ニーズ等</p> <p>田野畑村における平成 22 年の小学校の統合を控え、学校がなくなった後の地域の在り方について検討がなされてきた。教育委員会では、学校の担ってきた機能を代替える新たな組織として「地域クラブ」の検討がなされている。その実現に向けた基礎的データの収集とその方向性に対する検討資料が必要であると同時に助言が求められている。</p> <p>2 研究の実施内容</p> <p>以下の手順で研究を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5 月 現地調査の質問項目・現地調査計画の検討 ・ 6 月 12 日 (木) <第 1 回予備調査> 田野畑村教育委員会で小学校統合計画と住民説明会等の状況について聞き取りと資料収集。 ・ 8 月 11 日 (月) <第 2 回予備調査> 対象地区の自治会代表者等と調査概要の説明および現地調査の宿舎等の打ち合わせおよび対象地区の状況の確認。 ・ 8 月 27 日 (木) <第 3 回予備調査> 教育委員会で調査実施の打ち合わせおよび現地調査実施のための手配と宿舎 (民宿)、食事・弁当の手配交渉。 ・ 8 月 28、29 日 (木、金) 調査票 (郵送配票用) 調査・挨拶状印刷、発送。 ・ 9 月 9～12 日 (火～木) 調査員に対する現地と現地調査の説明。調査票・調査ガイド印刷。 ・ 9 月 12～14 日 (金～日) 田野畑村島越地区・沼袋地区現地調査実施。 ・ 9 月 18 日 (木) ～ 調査集計・集計表作成 ・ 10 月 調査結果の分析・検討の実施 ・ 11 月 田野畑村教育委員会・対象地区関係者に単純集計結果の報告実施 ・ 12 月 調査結果の分析・検討の実施 ・ 平成 21 年 2 月 報告書の作成 <p><調査概要></p> <p>(1) 対象地区：田野畑村島越地区・沼袋地区</p> <p>(2) 調査は 2 通り。</p> <p>(A) 配表調査 (郵送回収)：</p> <p style="padding-left: 20px;">対象者：各世帯の世帯主 (世帯主以外も可)</p> <p style="padding-left: 20px;">調査方法：田野畑村教育委員会の依頼の形で、事前に自治会を通して各世帯に配表、郵</p>

送形式で回収。さらに面接調査の際、返送の有無を尋ね、未返送の場合は回答協力を依頼調査員が記入漏れを点検して回収（一部はその場で面接調査）。なお、催促に応じて面接調査以降に返送されたケースもある。

(B) 面接調査（現地調査）

対象者：世帯の悉皆調査で、訪問の際に各世帯の20歳以上の方1名に回答協力を依頼し、さらに可能な場合は2名に依頼。

現地調査：平成20年9月12日（金）～14日（土）

調査員：岩手大学人文社会科学部学生（人間科学課程3、4年次）30名
（人文社会科学研究科修士課程2名を含む）

(3) 質問項目

(A) 配表調査：世帯ごとの地域住民活動参加の状況・地区の変化についての認知・地区帰属意識・小学校統合についての意見・地区住民活動の評価および世帯構成

(B) 面接調査：（世帯の）子どもの有無・小学校統合についての意見・伝統芸能の評価・余暇活動へのニーズ

<結果>

以下の各表のような結果が得られた。

表1 性別と世代

		～50歳	50代	60代	70代	80歳～
島越地区	男性(N=35)	17.1	20.0	20.0	28.6	14.3
	女性(N=65)	23.1	30.8	20.0	15.4	10.8
沼袋地区	男性(N=35)	25.7	0.0	31.4	11.4	31.4
	女性(N=43)	16.3	23.3	18.6	25.6	16.3
全体(N=178)		20.8	20.8	21.9	19.7	16.9

表2 回答者の職業

		主婦(家事)	臨時パート	雇用者(勤め)	職人・運転手など	自営業	漁業	農業	仕事はしていない
島越地区	男性(N=35)	2.9	—	20	2.9	7.7	31.4	5.7	31.4
	女性(N=65)	55.4	20	7.7	—	1.5	7.7	1.5	6.2
沼袋地区	男性(N=35)	—	—	22.9	14.3	8.6	—	14.3	40
	女性(N=43)	34.9	9.3	20.9	—	2.3	—	9.3	23.3

表3 子どもの有無

	小学生がいる	小学生前がいる	小学生以上がいる	20歳以下がない	NA
島越地区(N=100)	16.0	5.0	12.0	63.0	4.0
沼袋地区(N=78)	7.7	10.3	10.3	71.8	0.0
全体(N=178)	12.4	7.3	11.2	66.9	2.2

表4 統合後の影響と取り組みの必要性(%)

		小学生活動 の仕組み必要	課外活動あ れば不必要	これまで通 りでよい	触れあえる 仕組み必要	統合で活気 薄れる	取り組みば 薄れない	その他	わからない
島越地区	男性(N=35)	51.4	8.6	20.0	57.1	65.7	34.3	11.4	0.0
	女性(N=65)	33.8	13.8	20.0	43.1	55.4	21.5	9.2	9.2
沼袋地区	男性(N=35)	54.3	31.4	40.0	57.1	65.7	20.0	8.6	2.9
	女性(N=43)	39.5	16.3	23.3	58.1	46.5	23.3	2.3	4.7
島越地区	～50歳(N=21)	42.9	0.0	4.8	66.7	81.0	14.3	0.0	4.8
	50代(N=27)	33.3	11.1	14.8	25.9	63.0	18.5	11.1	0.0
	60代(N=20)	7.5	0.8	4.2	10.0	5.8	7.5	0.8	1.7
	70代(N=20)	45.0	30.0	40.0	55.0	60.0	35.0	15.0	0.0
	80歳～(N=12)	33.3	16.7	16.7	33.3	50.0	16.7	25.0	25.0
	～50歳(N=16)	37.5	12.5	12.5	31.3	37.5	18.8	18.8	6.3
沼袋地区	50代(N=10)	20.0	10.0	0.0	60.0	30.0	40.0	0.0	0.0
	60代(N=19)	12.4	5.2	7.2	14.4	12.4	3.1	1.0	0.0
	70代(N=15)	40.0	26.7	33.3	60.0	60.0	26.7	0.0	6.7
	80歳～(N=18)	55.6	33.3	55.6	61.1	72.2	16.7	0.0	5.6

表5 統合後の新しい組織の構築に対する意見(%)

		活性化に役 立つ	よい考えだ が実施困難	実行しないと わからない	新しい組織 はいらない	地区活性化 は困難	役場の取り 組み次第	住民の積極 性次第	その他	わからない
島越地区	男性(N=35)	48.6	22.9	51.4	5.7	14.3	20.0	51.4	8.6	2.9
	女性(N=65)	46.2	21.5	41.5	9.2	12.3	27.7	38.5	1.5	10.8
沼袋地区	男性(N=35)	54.3	48.6	34.3	22.9	37.1	25.7	45.7	8.6	0.0
	女性(N=43)	48.8	32.6	37.2	18.6	20.9	32.6	53.5	7.0	11.6

表6 統合後の取り組み(%)

	よく聞いて いる	ある程度は 聞いている	はっきりし ない	まだ聞いて いない	その他	関心がなく わからない
島越地区(N=100)	6.0	16.0	3.0	71.0	2.0	2
沼袋地区(N=78)	0.0	10.3	3.8	85.9	0.0	0
全体(N=178)	3.4	13.5	3.4	77.7	1.1	1.1

表7 もっと時間があればいいと思うこと(%)

		家族と一緒に の時間	家事・育児 の時間	仕事をする 時間	くつろげる 時間	運動する時 間	村外に出か ける時間	会合・行事 参加の時間	生涯学習を する時間	その他	特にな
島越地区	男性(N=35)	34.3	11.4	2.9	45.7	17.1	25.7	28.6	45.7	5.7	11.4
	女性(N=65)	30.8	16.9	13.8	33.8	27.7	18.5	18.5	35.4	4.6	10.8
沼袋地区	男性(N=35)	31.4	5.7	11.4	22.9	17.1	54.3	14.3	28.6	0.0	11.4
	女性(N=43)	23.3	7.0	9.3	23.3	16.3	27.9	7.0	32.6	0.0	32.6
島越地区	～50歳(N=21)	28.6	19.0	4.8	61.9	38.1	33.3	9.5	71.4	4.8	4.8
	50代(N=27)	29.6	7.4	11.1	40.7	29.6	11.1	25.9	48.1	0.0	7.4
	60代(N=20)	4.2	1.7	0.8	2.5	3.3	3.3	4.2	3.3	3.3	1.7
	70代(N=20)	40.0	25.0	15.0	4.0	15.0	35.0	25.0	20.0	0.0	15.0
	80歳～(N=12)	41.7	16.7	16.7	25.0	8.3	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0
	～50歳(N=16)	50.0	12.5	0.0	50.0	6.3	43.8	0.0	31.3	0.0	6.3
	50代(N=10)	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	40.0
	60代(N=19)	3.1	1.0	3.1	2.1	4.1	9.3	5.2	10.3	0.0	4.1
	70代(N=15)	26.7	13.3	20.0	26.7	20.0	33.3	6.7	13.3	0.0	26.7
	80歳～(N=18)	22.2	0.0	11.1	11.1	16.7	44.4	11.1	27.8	0.0	27.8

表8 いまよりもっとやりたいと思うこと(%)

		近所・地区 の人と過ご す	地域外の人 と過ごす	地域の子ど も達と過ご す	仲間と趣味 や生涯学習 の活動	仲間と運動 をする	仲間と海や 山に行く	地区や村の ために必要 な活動	他の地区や 村外の人と の交流	その他	特にな
島越地区	男性(N=35)	17.1	20.0	22.9	34.3	17.1	28.6	22.9	31.4	8.6	20.0
	女性(N=65)	13.8	16.9	24.6	40.0	33.8	24.6	18.5	15.4	4.6	21.5
沼袋地区	男性(N=35)	48.6	31.4	25.7	40.0	28.6	37.1	37.1	45.7	2.9	11.4
	女性(N=43)	27.9	20.9	20.9	32.6	32.6	20.9	9.3	16.3	4.7	25.6
島越地区	～50歳(N=21)	9.5	9.5	14.3	52.4	33.3	28.6	19.0	14.3	4.8	9.5
	50代(N=27)	3.7	14.8	22.2	37.0	37.0	25.9	22.2	25.9	3.7	18.5
	60代(N=20)	4.2	4.2	5.0	5.0	5.0	3.3	3.3	2.5	1.7	1.7
	70代(N=20)	25.0	30.0	25.0	30.0	25.0	35.0	20.0	25.0	5.0	35.0
	80歳～(N=12)	16.7	8.3	33.3	41.7	0.0	16.7	16.7	25.0	8.3	41.7
	～50歳(N=16)	31.3	12.5	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	37.5	0.0	12.5
	50代(N=10)	20.0	10.0	20.0	10.0	50.0	30.0	10.0	10.0	10.0	20.0
	60代(N=19)	8.2	5.2	6.2	10.3	6.2	7.2	8.2	6.2	2.1	4.1
	70代(N=15)	33.3	26.7	33.3	40.0	33.3	26.7	26.7	26.7	0.0	26.7
	80歳～(N=18)	50.0	44.4	5.6	38.9	22.2	22.2	22.2	33.3	0.0	16.7

表9 伝統芸能の保存活動はどのように地区に影響するか(%)

		地区活動全 般が活発に	地区のまと まりが強く	世代間の交 流・連帯	地区への愛 着が強まる	地区への関 心が高まる	住民の楽し みが増える	その他
島越地区	男性(N=35)	40.0	40.0	54.3	48.6	40.0	45.7	17.1
	女性(N=65)	47.7	38.5	50.8	30.8	43.1	46.2	13.8
沼袋地区	男性(N=35)	51.4	62.9	42.9	57.1	40.0	48.6	11.4
	女性(N=43)	51.2	53.5	51.2	46.5	67.4	37.2	16.3

3 考 察

- (1) 小学校統合問題への対応策の一つの面は「統合の小学生に対する対応」であるが、これは該当する児童をもたない住民には必ずしも課題として重要視されていない。これに対しもうひとつの面は、統合により失われる「小学校の機能の代替」であるが、特に島越地区では島越小学校の運動会へ毎年参加する世帯が7割以上で、小学校の地区統合（活性化）の機能が大きく、統合後の機能代替が大きな問題となっている。いずれの地区でも、たまたま小学校統合がきっかけになっているが、問題となっているのは地区の活性化自体である。
- (2) 「地域のシンボル」としての小学校の機能は代替不可能であり、小学校統合ともあいまって「地域が今後衰退してゆく」という過疎化の進行に対する悲観的な見方が多いが、島越地区では沼袋地区よりも楽観的な見方が強く、地区による違いが大きい。
- (3) 伝統芸能の機能・意義についても2つの地区の違いが大きく、沼袋の方が島越よりも機能・意義の肯定率が高い。伝統芸能の保存活動で知られている沼袋の甲地自治会の活動影響で、沼袋地区全体として肯定的な意見（「地区のまとまりが強くなる」「地区への愛着が強まる」「地区への関心が高まる」）の肯定率が高くなっていて、伝統芸能がシンボリックな意義をもち、地区の活性化に役立つことを示している。
- (4) ライフスタイルについて見ると、年齢による違いの方が大きく、より若い世代（50代以下）で「生涯活動」のニーズが強い。他方、地区による違いも大きく、島越地区では生涯学習のニーズが、沼袋では地区外・村外での活動のニーズが強い。以上の点から、地域活性化のためには、全住民参加型の活動と分化型の活動を組み合わせる必要があり、「クラブ活動」的な生涯学習の方式を充実させるなどの工夫が必要であろう。
- (5) 自治協議会・自治会は島越地区では実際上同一であるのに対して、沼袋地区では集落（自治会）によっても自治協議会と自治会の比重が違うなど、地区によって住民組織の活動も大きく違っている。地区のニーズの違いなどもあるので、統合問題への対応策も住民活動の活性化もその取り組みには、対象となる地区の特性、ライフスタイル・意識・ニーズに応じた工夫が必要である。
- (6) 住民活動の活性化に関しての住民の見方は「楽観・悲観・中立」と別れているが、そうした見方の違いを分析することにより、活性化の今後の方策に対するヒントが得られると思われる。

研究成果の活用可能性と期待される効果

第1に、田野畑村教育委員会が検討している政策に対して基礎資料として活用していただくことになっており、さらに調査をした「島越地区」と「沼袋地区」の自治会に対して報告書を提出することになっている。

第2に、他の地域へ資料提供するとともに、論文等で発表し、結果を活用していただけるようにする。

上記により、田野畑村の小学校統合後の地域づくりに向けた検討に対して重要な知見を提供できる。

三陸地域への波及効果

田野畑村以外の地域における地域の活性化に向けた検討の方向性（枠組み）を提示することができ、応用が期待できるものと考えている。

備 考